

地域公共交通確保維持改善事業(新モビリティサービス推進事業)・事業評価

令和4年1月31日

補助事業者名:精華町

評価対象事業名:新型輸送サービス導入支援事業(AIオンデマンド交通の導入)

①事業の結果概要	
(事業の実施内容、結果の概要等を記載)	
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> AIオンデマンド交通の導入に伴うシステム整備 AIオンデマンド交通のシステム導入に伴う導入設定、マニュアル作成、操作の指導 AIオンデマンド交通に利用する車両に搭載する運行管理機器の導入 AIオンデマンド交通の旅客乗降位置の標示又は標識の設置 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> デマンド交通の運行にあたり、システムの整備を行った。 システム導入にあたり、踏切を横断する必要性など運行エリアの特性を考慮しつつ安全性に配慮した滞留時間の設定等を行い、運行委託先に向けたマニュアル作成及び操作の指導を行った。」 デマンド交通の運行に利用する車両に搭載する運行管理機器の導入した。 デマンド交通の旅客乗降位置の標示及び標識の設置を行った。 	
②事業実施の適切性	
A/B/Cのいずれか	(交付申請時の計画に沿って、事業が適切に実施されたかどうかを定性的に記載)
A	デマンドバス運行にあたり、デマンドバスの利用者アンケートやデマンドバスを利用していない層へのアンケート(コミュニティバス利用者へのアンケート)を実施し、利用者数などの定量的な指標のみでは把握しきれない部分で、デマンドバスの有効性の検証を行うことができた。
③目標・効果の達成状況	
A/B/Cのいずれか	(交付申請時の目標値の達成状況等を定量的に記載)
B	利用者満足度は目標70%に対し90.9で達成。 利用者数は目標33人/日に対し、利用が最も多かった週の平均は10.7人/日(期間を通じた平均利用者数は7.3人/日、アンケート回答等をもとに試算したコミュニティバスが運行してなかった場合の利用者数は20~46人)
④今後の改善点	
(目標値の達成状況等を踏まえ今後の改善点や、取組内容等を記載)	
<p>今回は同区域でコミュニティバスが運行しながらの実験的な運行であったため利用者数が伸びなかったが、運行していない場合の試算は20~46人と、検討の余地のある数値となった。今後、デマンドバスの本格導入も視野に入れた検討を進めることとし、地域の意見の聴取や地域公共交通会議における議論を行っていく。</p>	

※事業実施の適切性における評価の凡例

- A: 事業が計画に位置づけられたとおり、概ね適切に実施された
 B: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった点もあったが、それに対する課題の整理が図られた。
 C: 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

※目標・効果達成状況における評価の凡例

- A: 事業が計画に位置付けられた目標を概ね達成した(する見込み)
 B: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった(一部達成できない見込み)
 C: 事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった(達成できない見込み)